



# いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：三瓶 和秀 幹事：鈴木 弘康 発行：会報・広報委員会

第 3026 例会 (9号) 2016 年 9 月 8 日 (木) 雨

## 外部卓話 SPEECH

### 事業は楽しく、記録は正確に



いわき地域学会  
代表幹事 吉田 隆 治 様

今日のタイトルは「事業は楽しく、記録は正確に」ですが、これはいわき地域学会の初代表幹事里見庫男さんが良く口にしていた言葉です。

これを引き継いで現在も我々が活動しています。いわき地域学会というのはいわき地域について総合的に調査・研究する市民団体です。ふつうは考古学なら考古学だけ、歴史学なら歴史学だけの専門的な研究を進めるという状態なのですが、それでは地域を総合的に理解することができないということで、33年前に立ち上げました。

私は新聞社の出身なので取材という言葉をよく使うのですが、地域学会の仲間は調査という言葉をよく使います。私の中では同じような意味でもあるのですが、取材は聞き取りを中心としたいわばオーラルヒストリーで、調査はそれにプラスして文献を紐解くなどの様々な要素が入ってきます。地域について聞くことばかりではなく調べることが大事だと現役の記者のころから感じていました。

そのような調査研究した成果を報告書にまとめるのが地域学会の目的です。今までかなりの冊数を出版してきました。その地域学会図書刊行のことばが「我々は、我々が現に生活している『いわき』という郷土を愛する。しかし偏愛のあまり目を曇らせてはいけなとも考える。それは科学的態度を放棄した地域ナショナリズムにほかならないからである」です。客観的、科学的に「真実」に近づくことを目的に学んできました。

その具体例として3つご紹介します。

一つ目が「平七夕まつり」の起源です。これについてはいろいろ言われていますが、大正8年の七十七銀行平支店の開業と平七夕まつりの始まりが混ざったまま現在に至っているということが資料を調べるとわかります。江戸時代に盛んだった仙台の七夕祭りが近代になって一度廃れ、その後昭和3年になって復活をしました。昭和5年に七十七銀行平支店で仙台の七夕で使われた飾りが披露されました。その後、昭和7年に3町目の有志が七夕飾りを実施。さらにそれまで行われていた「松焚き」の行事が道路の舗装により中止になるに伴って七夕まつりが商店街に広まりました。当時の地域紙を紐解くと昭和10年の磐城時報には「平町振興名物『七夕飾り』は今年第二回のこととて…」と出てきます。平七夕まつりは間もなく100回ということになりそうですが、戦争中の中断なども考慮すると本当の回数は何回なのかということを引きちんととらえる必要があるのではないかと思います。

じゃんがらとエイサーの関係についてですが、袋中上人を媒介にしていわきと沖縄につながりがあったのは事実ですが、そのつながりからじゃんがらとエイサーを関連付けるのは問題があるのではないかと思います。じゃんがら念仏が行われたのは1650年ごろから、袋中上人が沖縄にわたったのは1603年で、まだじゃんがら念仏踊りはなかった時代になります。無理に関連付けなくてもよいのではないかと思います。調査結果なのですが、つながっていれば良いなという願望が2つの関連を事実として喧伝してしまっている気がします。

3点目は背戸岬廊の読み方です。夏井川の支流、江田川の溪谷を「せとがろう」と呼んでいましたが、本来は「せどがろ」が正しい読みです。地元の人が目の前を流れる「加路川『がろがわ』」に対して山の裏を流れる江田川を「背戸(山陰)の加路『せどのがろ』」と呼んだのがもとになっています。戦後になって草野心平が江田川を探検したときにその景観に感動して「背戸岬廊」の漢字をあてたというのが真実です。その後読み方も「せどがろ」から「せ



2016~2017年度  
国際ロータリーのテーマ

## 「人類に奉仕するロータリー」

Rotary Serving Humanity

# 「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

とがろう」に変わってしまいました。この調査結果を地域学会の市民講座などで報告しているうちに、草野心平記念文学館や観光物産関係のパンフレット等で「せどがろ」と紹介されるようになり、昨年はNHKの番組で「せどがろ」という本来の読み方で紹介されました。

間違っただけを訂正することは大変です。間違っただけを広めるのもマスメディアですが、それを訂正するのもマスメディアなので、記者一人ひとりの気概が必要ではないかと思えます。

いわき総合図書館には明治時代からの地域の新聞が電子化されて閲覧可能になっています。誰もが正しい情報を得られる時代です。事業主体は正しい情報を把握して展開をしなければ、他から笑われてしまう時代になっているのではないかと思えます。

## 司会：鈴木弘康幹事

〔点鐘・ロータリーソング(我らの生業)・四つのテスト(有賀行秀会員)〕

有賀行秀会員



## ◆来賓・来訪ロータリアンの紹介

○卓話をお願いしたいわき地域学会代表幹事  
吉田隆治様

## ◆会長挨拶ならびに報告



先週、メークアップに来られた吉田さんは公認会計士の資格を持っていらっしゃいました。公認会計士は、日本三大難関国家試験と呼ばれていました。ほかの2つは司法試験と不動産鑑定士です。今は上級国家公務員試験がそのどれかに代わることがあるようです。

三大何とかというのは結構変遷があるようで、皆さんご存知の日本三景の天橋立、松島、宮島は変わりませんが、日本三大鍾乳洞は福島県では龍泉洞、秋芳洞、あぶくま洞ですが、他の地区ではあぶくま洞ではなく高知県の龍河洞が普通のようなようです。日本三古泉も福島県では有馬、道後、湯本温泉ですが、他地区では湯本温泉ではなく白浜温泉や下呂温泉、別府温泉になることのほうが多いようです。

日本三名園は兼六園、偕楽園、後楽園ですが、足立美術館はさらにその上をいくという、三大何とか以上になってしまうわけのわからないことが起きてしまっています。

## ◆幹事報告

- 福島特別支援教育振興会より「障害者差別解消法」に関するフォーラム開催のご案内が届きました
- いわき経済同友会より会報が届きました。
- いわき国際交流協会よりワールドアイが届きました。
- 郡山RCより会報が届きました。

## 委員会報告

### ◆出席委員会(青木喜久男委員長)

例会日	基本会員数	出席者	メークアップ数
9月8日	51名	25名	—

### ◆ロータリー財団委員会(鈴木東雄委員長)

関口武司さん、森雄治さん、大久保健蔵さん、松崎浩さん、阿部弘行さん、鈴木弘康さん。以上6件

### ◆米山記念奨学会委員会(松崎浩委員長)

松崎浩さん、山崎洋次さん、大久保健蔵さん、鈴木弘康さん、阿部弘行さん。以上5件

### ◆スマイルボックス委員会(代理・大久保健蔵会長エレクト)

♥三瓶和秀さん(吉田さん卓話よろしくお願ひします) ♥有賀行秀さん(吉田さん卓話よろしくお願ひします) ♥八幡恭朗さん(吉田様、卓話よろしくお願ひします) ♥森雄治さん(吉田さん卓話楽しみにしています) ♥飯野光世さん(吉田隆治さん卓話よろしくお願ひします) ♥鈴木東雄さん(吉田さん卓話楽しみにしています。よろしく) ♥青木喜久男さん(吉田さん、卓話よろしくお願ひします) ♥山崎洋次さん(卓話よろしくお願ひいたします) ♥郡二三子さん(吉田さんの卓話に感謝して) ♥池田直彦さん(結婚祝、誕生祝ありがとうございました) ♥阿部弘行さん(早退します) 以上11件



★本日の例会案内 9月15日(木) 12:30～  
新人卓話 志賀康朗会員

お食事メニュー＝牛フィレステーキ野菜添え

★次回の例会案内 9月25日(日)  
第2530地区 地区大会  
(9月29日は振替休会)